

新潟水俣病公式確認 61 年  
新潟水俣病の歴史と教訓を伝えるつどい  
被害者団体代表 後世へのメッセージ

(最初に訴えたい事)

後世へのメッセージをお話しする前にどうしても触れなければならぬことがあります。このつどいに私たち患者会や新潟県が強く出席を要望していた環境省の石原大臣、そしてレゾナック・ホールディングスの高橋社長の顔が見えないのがとても残念です。

水俣病患者の「痛み」「苦しみ」を聴いてもらいたかった。残念です。是非、機会を作って、水俣病患者の訴えに耳を傾けていただきたいことを最初に訴えます。

(自己紹介)

後世へのメッセージを述べます。

私は新潟水俣病阿賀野患者会会員の菅原ハルです。ノーモア・ミナマタ第2次訴訟の原告で提訴から10年近く闘ってきました。昭和15年生まれの現在86歳、新潟市内に住んでいます。28歳まで看護師をしていました。

(魚の喫食状況)

新潟水俣病の発生源となった阿賀野川が日本海に注ぐ河口の松浜地区に結婚して住居を構えました。

私ら夫婦は魚が好きでしたから、阿賀野川の魚を毎日のように買って食べていました。集落の漁師の奥さんたちが売りに来るのを買っていました。一軒しかない魚屋さんや2と7の日に開かれる市で買うこともよくありました。当時の我が家のおもなタンパク源は川魚でした。

(今、身体の症状や心の痛みで困っていること)

40年以上、体の痛みで苦しんでいます。今、一番大変なのはしょっちゅう起きるこむら返りです。寝ている時に起きることが多く、両手でさすると2、3分で収まるのですが、また起きます。そして強い痛みが残ります。「こんな足、もう要らない」と声に出すぐらい痛みが全身を走ります。それと両手足のしびれ、ふるえが1日中、続きます。

私が受けた心の痛みも知って下さい。

2年前の7月、皆川原告団長の姿勢に学び、「私も皆川さんについていこう」と決意し、地元紙の取材に氏名も顔も出して応じた記事が掲載された朝、知人からの「金欲しさにやっているのか」の電話に驚き、不安になり、一日中、外出もできませんでした。

少したって、「これでいいのだろうか」と悩み、思い切って電話をくれた知人宅を訪れ、水俣病の事、裁判の事等を話して、分かってもらいました。

(私たちを励ましてくれる2つのこと)

一方、私たちを励ましてくれる2つのことをお話しします。

私は昨年度、市内の4つの大学と市民向けの講演会で水俣病患者のことを話してきました。特に多くの学生さんたちが真剣に聞いてくれて、紙面一杯の感想文も沢山いただきました。今日の「つどい」でこの後、発表する新潟県立大学を2年前に卒業した山田孝太郎さんは「社会人となっても水俣病に関わっていきたい」と病院に就職し、昨年、若者たちで「阿賀と生きる会」を立ち上げ今、頑張っています。ほんとに嬉しいことです。

9月には村上市の新潟リハビリテーション大学からの要請でお話

に行きます。看護学校や高校生にも話していきたいと思っています。

もう一つ嬉しいことは、私たち患者会は「水俣病被害者救済」を求めて国会での「新法案」の提出・成立をめざして闘っていますが、「新法案」支持の議会決議が昨年、県議会及県内 30 全自治体全部で全員一致で採択されました。

新潟県の花角知事さんや中原新潟市長さんは毎年、上京して環境省に「早期救済」を訴えていただいております。

まさにオール新潟で私たちの「水俣病被害者の早期救済」の願いを応援し、共に闘ってくれています。ほんとに有難うございます。

(私の最後の願い)

新潟の原告患者の平均年齢は 75 歳を超え、すでに 39 人の原告患者が判決を待たずに亡くなりました。私たちには時間がありません。「生きている中の解決」が願いです。

そして「水俣病になったけど、長生きできてよかった」と言えるように残りの人生を豊かに生きていきたいです。

最後にお願いです。11 年前の「新潟水俣病公式確認 50 年」事業でこの資料館前のお庭に当時の泉田知事さんの名前で「新潟水俣病の歴史と教訓を伝える碑」が玄関前に建っています。是非、お帰りの時に碑文を見ていってください。

水俣病患者の訴えを最後までお聞きいただいたことに感謝して、私の後世へのメッセージを終わります。有難うございました。